

【自由記載】

多くの方々からたくさんのご意見をいただきましたので、一部を紹介いたします。

問5 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することは何ですか。(選択肢 13「その他」への記載)

家族の健康・物価 ◆(70 歳以上 男性 中部)
商店の充実、交通機関の充実、エンタメイメントの充実 ◆(40～49 歳 その他・回答したくない 東部)
県外とのアクセス ◆(50～59 歳 男性 東部)
災害がひどくならない ◆(50～59 歳 女性 中部)
文化芸術が充実しているか ◆(60～69 歳 女性 東部)
家事育児の状況 ◆(50～59 歳 女性 西部)

問8 男性の家事、育児、介護への積極的な参画を促進するために、行政が行うべき施策は何だと思いませんか。
(選択肢8「その他」への記載)

小中学校など低年齢時からの教育 ◆(30～39 歳 男性 東部)
退職後の男性の家事や介護への積極的な参画を促す取り組み ◆(60～69 歳 女性 東部)
家事や育児、介護のための休暇をとった場合の人員の補充 ◆(30～39 歳 男性 西部)
育休や介護休暇を取得しても、給与や手当が変わらないこと。また、昇任が遅れないこと。 ◆(30～39 歳 女性 東部)
ワークライフバランスを可能にするだけの給与 ◆(30～39 歳 女性 中部)

問9 男女参画社会を実現するために、行政が特に力を入れるべきことは何だと思いませんか。
(選択肢 10「その他」への記載)

女性が経済的に自立できるための教育機会の充実、支援 ◆(60～69 歳 女性 東部)
社会的立場や地位において、男女間に差があることはおかしいことであるということが、当たり前の認識になるような啓発活動等 ◆(30～39 歳 女性 西部)

給与の補填(そのような体制をしている企業への金銭的補助→職員への金銭的サポート) ◆(50～59 歳 男性 西部)
夫婦の収入差異の是正(どちらが休んでも育児、介護等にかかる費用をまかなえる状態) ◆(30～39 歳 - 西部)
育休産休取得者がいる職場への支援 ◆(40～49 歳 女性 西部)
既に十分実現できている。必要以上の行政介入は不要。 ◆(60～69 歳 男性 西部)

問 12 ご自身の中にある性別役割分担意識は、主に誰からまたは何から影響を受けたものだと思いますか。
(選択肢6「その他」への記載)

親類 ◆(50～59 歳 女性 東部)
自治会役員 ◆(50～59 歳 男性 西部)
育った環境と自身の経験 ◆(50～59 歳 女性 中部)
日本の社会的伝統 ◆(50～59 歳 男性 東部)
地域社会 ◆(50～59 歳 男性 東部)

問 14 性別役割分担意識による生きづらさの内容

家庭内、職場内における待遇の差、男女差があげすけな業務分担 ◆(20～29 歳 女性 東部)
女の子だから、家事ができないといけない、手伝いをしなさいなどと幼少期に言われていた。当時幼いながら、なぜ兄・弟はしなくてもいいのに、自分ばかり？と思っていた。その意識を改めないといけないと思う。 ◆(30～39 歳 女性 西部)
妊娠、出産で仕事をやめないといけなくなった。正社員として働きたいが育児・介護等考えると非正規の働き方になる。 ◆(50～59 歳 女性 西部)
男性で育休をとりづらい。(家計的にも、職場の雰囲気的にも) ◆(40～49 歳 男性 東部)
男性がリーダーシップをとるべきであるという考え方がありそれによって悩まされた。 ◆(70 歳以上 男性 西部)

問 15 どうすれば性別役割分担意識による生きづらさ(「暮らしづらさ」、「働きづらさ」、「仕事と家庭の両立しづらさ」など)が解消されると思いますか。(選択肢6「その他」への記載)

家庭・学校(子供の時から)での教育方針で、時間をかけて実施するしかないと思われます。 ◆(70 歳以上 男性 中部)
営業だから、帰宅が遅くなるなど、職種によっての通勤時間の違い、子供がいる家庭、看護が必要な家庭など様々なので、家庭と仕事が両立できるようなバランスが取れるよう、企業側の配慮があるとよい。 ◆(30～39 歳 女性 西部)
キャリアが一時中断されても、復職しやすい環境。 ◆(20～29 歳 女性 西部)
学校教育から、男性もあたり前に家事・育児をすることの教育推進。 ◆(50～59 歳 女性 東部)
親の姿を見て子は育つので、夫婦で家事や育児をする姿を見せておけば、子供は自然にそれが当たり前で育つ。どちらがメインで働くにしても、家事は共同で行うことが大事だと思う。 ◆(50～59 歳 女性 西部)

自由記載欄(「ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください」への記載)

一般の人に、県のセミナーに来てくださいといっても、そもそも情報が、必要な人のところに届かない。認識を変えてほしい人に限って、自分には必要ないと思っている…ということも多いと思う。もっとハードルが低い、もしくは参加するメリットがある(QUO カードあげますとか)じゃないと、なかなか啓発にならないのでは？ ◆(30～39 歳 女性 東部)
政策を実施されるにあたり、具体的な目標値(短・中・長期)が分からない。そのため検証する際に判断材料がない。 ◆(60～69 歳 男性 東部)
これから、少子化やDX化で窓口や電話での対応がますます少なくなる。頼りはホームページになる。県のホームページの検索のしにくさ、リンク先の質量不足、イベント告知内容の貧弱さ、施策の噛み砕いた説明不足を解消してほしい。 ◆(50～59 歳 女性 西部)
私は平日残業が多く帰宅が遅くなります。夫はシフト制の勤務のため平日家に居ることが多いです。そのため小学生の子供の世話や家事は夫がやっています。土日は私がやります。夫も私もそれが普通の事としています。男女共同参画という言葉をわざわざ使わなくてもそれが普通の世の中になればよいと思います。 ◆(40～49 歳 女性 東部)
性別による線引き(管理職女性何割等)とかを無くしてほしい。県や市でも訴えているが、反対に固定的性別役割分担意識になっている。単純にマネジメント能力で判断すれば良い。県民や市民の為になっておらず、損をする職員も増えていると感じる。 ◆(30～39 歳 男性 東部)

必要な能力や経験を有する人間の中から選ばれるべきであり、そこに男女の差を作るべきではないと思います。管理職や政策決定の場に女性が少ないのは、女性だから登用率を意図的に引き下げられているわけではなく女性が家事や育児に時間を割かれ、仕事に注力できる環境ではないからだと感じます。対処療法のように「女性を管理職に！」ではなく、管理職を担える人材の育成や、環境を構築して、段階を踏んで男女の比率を縮めていくべき。 ◆(40～49 歳 男性 東部)
医療・福祉の仕事をしています。一般サラリーマンと比較すると給料が少ないです。有給休暇も取りづらく、志が揺らいでしまいます。診療報酬、介護報酬に縛られて、職員の賃上げすらできない状況です。処遇改善などの施策はありますが、その場しのぎ感が否めません。結局ボーナスカットで収入はマイナスです。こんな状況で介護分野など、人材が確保できるのでしょうか…？ ◆(30～39 歳 男性 西部)
住みやすい、働きやすい環境であってほしいです。物価高の中で、給料が安く、生活に困難を感じている(皆がそう感じていると思います)。他の県では米の支給(サービス)だったり、何かしら県でされているので鳥取県もしてもらえるとありがたい。後、子育て支援に力を入れるだけでなく、国民みんなが安心して気持ちよく生活できるように力を入れて取り組んでほしい。 ◆(40～49 歳 女性 東部)
無職や引きこもりの社会復帰に対する取り組みを強化してもらいたい。 ◆(30～39 歳 女性 中部)
出産の数を増やすには女性の社会復帰や働き方、社会全体の子育てに対する意識以上の形が必要だと思います。社会へお金を回すための政策や、住んでいる人が鳥取で良かった、少しでも豊かな思いが生まれるような取り組みをしてほしいです。外からどう人を呼ぶかより、内の人をどう豊かにするかと考えて、その先にある魅力を人に国民に伝わってほしいと思います。 ◆(20～29 歳 男性 東部)
県全体で保育士不足が極めて重要な問題だと思っています。自治体は保育士募集をしていますけれどもそもそも応募がないということが多々あると聞きます。処遇改善について県全体でもっと取り組み待機児童の解消に努めていただきたいです。 ◆(30～39 歳 女性 中部)
産後ケアの宿泊型は2泊3日しか使えず、2泊3日で産後の体は回復しない。核家族も増えている中、時代に遅れている。身近に頼れる人は当たり前にはいない。産後ケア施設が限られており、市町村で利用の取り合いになっており、利用したい時に利用出来ない。 ◆(20～29 歳 女性 中部)
子育ては親がするものという考え方から、親が抱え込まず支援を活用して子育てするに変わってきている事は、良いと思いますが、根っこには、親が責任を持って子どもと向き合うということが大切だと思っています。子育ては大変なこともあります、楽しく幸せな事がたくさんあります。でも、子育ては大変なものだから、保育園にお任せしたら良いという考えも広がってきてしまっているのを感じ、果たして、子どもにとってどうなのか疑問に思っています。男女の差というより、親が子どもと一緒に過ごす時間がもっと取れ、子どもたちの心が満たされる世の中になると良いと思っています。 ◆(40～49 歳 女性 東部)

学生なので県内の学校に通っているのですが電車で 1 時間ほどかかります。時刻表を見る度しみじみ鳥取県は交通インフラの整備がなっていないと思うことは多々あります。ですが人口が少ない上、山陰線は赤字続きで簡単に増便するのが苦しい状態なのもわかっています。でも県自体は子育て支援や育児環境の整備等、人口対策に力を注いでいるのも学生ながら伝わってきます。県立美術館も建てられ中部もこれから賑やかになってくれたら変わってくるかもしれません。いつになるかわからないですがもう少し発展した鳥取で暮らしたいと思っています。 ◆(18～19 歳 女性 中部)
20 代前半に仕事で鳥取県に赴任した後、主要都市で生活し、定年前に帰って来ましたが、子供達教育及び就職等については、都会の都市圏の方が充実していました。鳥取の良い点は、自然が豊かで、食べ物が豊富で水道水が美味しいことです。コンビニ、スーパー等が充実して、昔と比べると、とても良い環境になったと思います。ただ、移動手段については、車がないと困り、人数分の自動車を取得しなければならず、ガソリン代、維持費、税金等の負担が大きく、何らかの対策を願います。 ◆(60～69 歳 男性 西部)
年配者が多い割に、買い物も通院も歩いて通う事が出来にくい。例えば、地元のバスが無くなった事で移動手段を無くして困っている人がたくさんいる。タクシーもなかなかつかまらない。免許を返納した後でも安心して出かけられる社会が望ましい。 ◆(60～69 歳 女性 西部)
空き家、空き地、耕作放棄地が増えつつあり、竹ヤブや山林化した地が近隣に多く、害虫の発生など環境悪化を日々感じている。対策や相談が出来たらと思います。所有している方や、やむなく相続されて困っておられる方も多いと思います。環境、景観も損なう問題に私自身も非常に困っている状況です。解決できる道筋が欲しいです。 ◆(50～59 歳 男性 西部)
鳥取県は田舎で人口の少ない県ですが、まだまだ知られていない魅力はあると思います。県民が思っているも、それを広げたり、実行する力は足りません。そこは行政の方の力が重要だと思います。もっと鳥取県を盛り上げて下さい。このままでは、さらに人口が減ってしまうことになるかもしれません。 ◆(30～39 歳 男性 西部)
年収 400 万以上かせげる事務系(文系女子が懂れる仕事)企業が誘致できないと、若年女性が都会から帰ってこないと思う。 ◆(40～49 歳 女性 東部)
鳥取駅から県庁に続く商店街が閉まっていて活用されていないのが残念でなりません。(閉まった店の上に、人が住んでいるから活用できないんですか?)飲食街化するとか、やはり若い人がもっと集える映画館(老朽化の為)カフェなどの整備を早急に進めて欲しいです。映画を見る為、日吉津のイオンまで行っているのが現状です。(中・高生の子供達が見たい映画が鳥取にはほとんどないと言っている) ◆(50～59 歳 女性 東部)
若者が鳥取県を出て戻ってこない理由の一つとして、若者が遊べる場所が少ないと思います。遊べる場所をもう少し増やして欲しいです。あとは、洋服を買うところもなく私自身も県外行った時とかに買ったりするので若者が好きなブランドがあるといいなと思います。また、流行りの食べ物だったりそういったものが早くはいつてくると嬉しいなと思います。 ◆(20～29 歳 女性 西部)

同じ年に入社しても 給与にパートナーとの差がある。能力と言われれば、男で力仕事も出来るという点での差か？必然的に家計での主たる収入は男性に傾き女性は家庭内へと追いこまれるような気がする。収入で男女の差が無ければいいのに。 ◆(40～49 歳 男性 西部)
これから、もっと農業する人や野外で働く人が減ると思う。若い人が働きたいと思う取り組みや支援があれば良いと思います。 ◆(40～49 歳 女性 東部)
小中高生向けの交通安全指導、交通ルール啓発を充実して欲しいです。未だに携帯をいじりながら自転車を運転する姿を見るし、どんなに車が交通ルールを守って運転していても、事故が起これば車が悪くなる。歩行者、自転車、車お互いがルールを守った上で成り立つ安全だと思います。警察の方々にはぜひ頑張って頂きたいです。あと若者が鳥取県に帰って来たくなるような遊戯施設が無いし、交通も車に頼るしかない。バスなどの交通インフラ、お年寄りが免許返納しても困らないような対策を考えて頂きたいです。 ◆(50～59 歳 女性 中部)
観光客を呼び込む材料はあるので、もっと積極的にアピールしていくべきだと思う。アニメの聖地にもなっているため、アピールが少ないのは勿体ない。もっとイベントなどを開催し、旅行先に選んで貰えるようにすればいいと思う。SNS が普及しているため、どのようなイベントが盛り上がるのか、何をしたら魅力がアピールできるのか参考にし SNS で発信していけば若い層に来てもらえそうだと思う。また、交通機関があまりにも少なく不便に感じている。高齢者も免許を返納した後移動手段に困ると思うので発展させていくべき(観光客も移動手段に困るのでは) ◆(20～29 歳 女性 西部)